

ふれあい

ご自由に
お持ちください一般財団法人光ヶ丘愛世会
光ヶ丘スペルマン病院

Vol.23



新年明けましておめでとうございます

病院長 志村 早苗

皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は一昨年に引き続き、新型コロナウイルス対策にあけくれた1年だったと思います。当院でも発熱外来、コロナワクチン接種、院内感染防止に病院一丸となって取り組み、地域医療の一助を担ってまいりました。

当院では現在、面会を制限しております。入院患者さんをご家族のお気持ちを考え、少しでも繋がりをもっていたくためにタブレットを使ったWeb面会を実施しております。なお、緩和ケア病棟におきましては、条件付きで面会を行っております。人と人との繋がりをもっと大切にするために新型コロナウイルスの終息を切に願うばかりです。

本年度も職員一同気を引き締め、患者さま・ご家族の皆さまの理解・協力をいただき、さらなる医療の質向上と地域の皆さまに安心していただける医療を提供してまいります。どうか本年も、何とぞ宜しくお願い申し上げます。

新理事長の就任のご挨拶

謹んで新年のお慶びを申し上げます。



一般財団法人光ヶ丘愛世会の理事長として着任し、早2ヶ月が経過いたしました。

理事長交代に伴い、皆様にはご心配をおかけしたことと思います。

皆様からの多大なるご協力を得て、無事、新しい年を迎える事ができましたことに、この場をお借りして心から御礼を申し上げます。

光ヶ丘スペルマン病院は、結核に苦しむ人たちのための病院開設を目的として1955年に設立され、現在は、地域に開かれた140床の一般病院として、内科・小児科・リウマチ内科・緩和ケア内科を中心に診療しております。

なかでも緩和医療については、県内で初の緩和ケア病棟(ホスピス)を開設したという歴史があります。

私は、元々、関東の急性期病院で外科医をしておりましたが、東日本大震災の医療ボランティアに参加したことをきっかけに地域医療への関心が高まり、2013年に宮城県登米市で在宅診療所を開設しました。

現在は、東北地方を中心に多数の在宅診療所を運営しながら、それぞれの地域の医療・介護・福祉に従事する方たちと共に、地域の医師不足問題やまちづくりに取り組んでいます。

今後は、在宅診療所運営で培った多職種でのチームアプローチを病院の運営に活かして、光ヶ丘スペルマン病院の歴史や背景も大切にしながら、「地域に頼られる病院づくり」の推進に努めて参る所存ですので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



理事長

田上 佑輔

たのうえ ゆうすけ

略
歴

2005年 3月 東京大学医学部 卒業
2005年 4月 国保旭中央病院 研修医
2007年 4月 国保旭中央病院 外科専修医
2010年 4月 東京大学医学部附属病院 腫瘍外科
2013年 4月 やまと在宅診療所 登米院長
2014年12月 医療法人社団やまと理事長兼
やまと在宅診療所 登米院長
2022年11月 一般財団法人光ヶ丘愛世会 理事長

病棟紹介

一般病棟

内科の急性期疾患の治療、回復を目的とした病棟です。症状が少し安定してくる時期までの患者さんを受け入れています。患者さんご家族の方が安心して気持ちよく入院生活を送れるような環境を常に整えています。



緩和ケア病棟（ホスピス）

対象患者

- ・ 医師が「治癒が望めないと判断した悪性腫瘍の患者」で苦痛の緩和を必要としていること。（原則、余命6ヶ月以内）
 - ・ 患者本人ご家族、またはいずれかが入院を希望していること。
 - ・ 患者本人が「治癒が望めない病気であること」「入院後は治癒を目的とした治療は行われないこと」を理解していること。
- 緩和ケア病棟では、病気を治すための治療は行いませんが、痛みなどのつらい症状については積極的に緩和を行います。

特殊疾患病棟


長期にわたり療養が必要な重度の脊髄損傷等の身体障害者、意識障害などの重度障害、及び神経難病の患者さんが安心して長期入院治療を受けることが出来る病棟です。症状の重い患者さんやご家族が安心し、明るく前向きな療養生活を送っていただいています。また、褥瘡対策も重視し、一人ひとりにあった予防・治療方法をチームで話し合いをしています。



地域包括ケア病床

急性期の治療を終え、病状が安定した患者さんに対して、住み慣れたご自宅や介護施設への復帰支援を医師、看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、管理栄養士、社会福祉士などが協力して行う病床です。在宅での療養に不安があったり、もう少し経過観察が必要な患者さん、在宅復帰に向けた積極的なリハビリが必要な患者さんなどのために安心して退院していただけるよう支援をしています。

～ 緩和ケア病棟(ホスピス)について～

入院目的	苦痛症状緩和	痛みをはじめとした苦痛症状を緩和します。	レスパイト	家族の介護疲れなどで、短期間(1～2週間程度)の入院が必要な場合の支援を行います。
	在宅療養への復帰	在宅療養を希望されているが症状が強く、短期入院で症状コントロールし、在宅への移行をはかります。	終末期ケア	症状が進行している患者への終末期ケアを行います。
ご利用の流れ	STEP1 面談予約	緩和ケア内科診療情報提供チェックシートをFAXの上、お電話にてご予約ください。		
	STEP2 入院面談	患者さんご本人が受診できない場合は、ご家族やご本人の意思を代弁できる方でも差し支えありません。 水曜・木曜の午後(緩和ケア病棟の見学は外来受診後に行うことができます)		
	STEP3 入院判定会議	外来の相談内容、診療情報提供書をもとに医師、看護師、医療スタッフによる判定会議を行います。入棟の可否・順番を決定します。		
	STEP4 入院	外来受診から入院までの期間は、入院予約状況により変動します。		

ご相談はこちら ▶ 光ヶ丘スペルマン病院地域医療連携室 TEL: 022-298-8580 (直通) FAX: 022-298-8583 (直通)

交通アクセス



バスでお越しの方

- 仙台駅前ロフト西側(18)バス停より
鶴ヶ谷7丁目行き保健環境センター前下車徒歩5分
- 仙台駅前ロフト西側(19)バス停より
中江・二の森経由・東仙台営業所行き
東仙台4丁目バス停下車徒歩1分



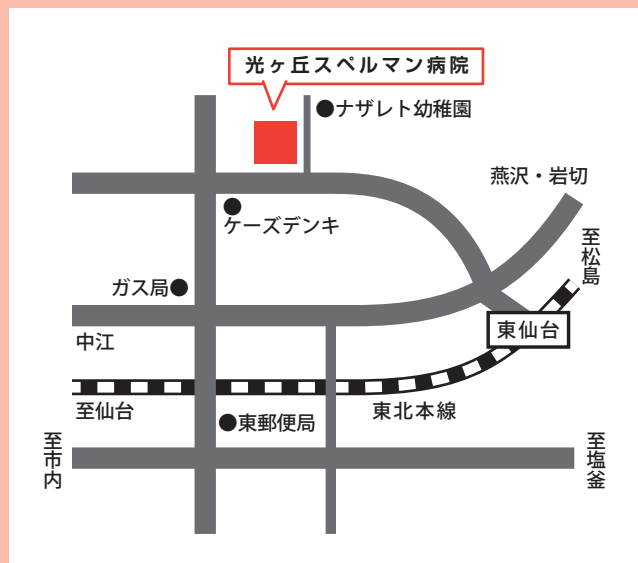
JRでお越しの方

- 東仙台駅下車、徒歩:10分 タクシー:3分



お車でお越しの方

- 利府方面からお越しの方
利府街道、東仙台2丁目交差点を右折し約500m先右手です
- 仙台駅方面からお越しの方
45号線を苦竹方面に進み、坂下交差点を左折、約1.3km直進し、柊江交差点を右折後、約300m先左手です



編集後記

新年明けましておめでとうございます。今年の干支はうさぎですね！うさぎにまつわることわざに「うさぎの登り坂」があります。うさぎは困難な登り坂でもいとも簡単にピョンピョンと飛び越えていくことから、すべての物事が順調に進むことを表しているとされ、縁起がいいとされています。皆さまにとって「飛躍」の一年となりますように。

(地域医療連携室 / N.S.)

基本理念

○愛を持って奉仕します ○人間の尊厳を大切にします ○祈りつつ努力します

発行日: 令和5年1月 発行: 光ヶ丘スペルマン病院

URL <https://spellman.or.jp>

地域医療連携室 室長 田島 直美

連絡先: 光ヶ丘スペルマン病院 地域医療連携室 〒983-0833 宮城県仙台市宮城野区東仙台六丁目7番1号
TEL: 022-257-0231(代表) TEL: 022-298-8580(連携室直通) FAX: 022-257-0201(代表) FAX: 022-298-8583(連携室直通)

